

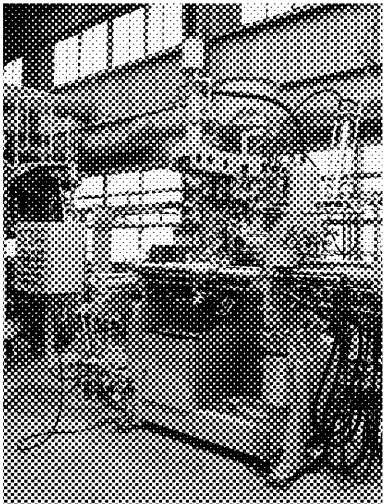
# 東洋シエル製設備修理

## 松下工業 技術承継会社と協業

【浜松】松下工業（静岡県磐田市、松下隆彦社長）は、現存しないメーカー製のシエル中子造型機の修理、保守を事業化する。受託部門「オーバーホール部」を設置し、2025年3月から事業を始める。対象設備は18年に破産した東洋シエルマシン製のシエル中子造型機。同社の技術資産を承継した浪速鑄機販売（大阪市淀川区）と協業する。徐々に顧客を拡大し、売上高で初年度に5000万円、3年後に2億円を目指す。

### 中子造型機で事業化

シエル中子は、シエ空部を作る砂型。松下一ルモールド鑄造法で中工業はシエル中子の製



造を主要事業とし、東洋シエル製設備を使用している。同社の事業停止後には元従業員を受け入れ、社内設備のメンテナンス部門を整えてノウハウを蓄積していた。一方、同様の設備は

松下工業がオーバーホールして社内稼働している旧東洋シエルマシン製のシエル中子造型機

現在でも各地で相当数が稼働していると見られ、同業者から保守に不安を抱える声を聞いていた。そこで業界の安定稼働への貢献と事業性の両面を検討し、オーバーホールの受託開始を決めた。

事業開始に当たり、本社工場と新島工場（静岡県磐田市）、ロボット事業部の富里工場（同）を活用し、毎月1

3台程度を受け入れられる体制を整える。

作業内容によっては出張で対応する。業務の人員は積極的に若手に対応させ、オーバーホールの技能伝承につなげる。自動化を提案するロボット事業や中子のバリ取り用のヤスリ販売事業など、既存事業と相互販売を図る。

浪速鑄機販売とは受注活動のほか、部品の調達や供給など業務全般で連携する。同社は東洋シエル製設備の新規受注も行っているため、松下工業での組み立て工程の受託も視野に入れる。